



アトピー性皮膚炎 ～きちんと治療して快適に～

アトピー性皮膚炎は、かゆみのある皮膚の炎症（湿疹）が良くなったり悪くなったりを繰り返す病気で、子供のころに発症することが多く、大人になっても続く場合があります。この病気は、アレルギー体質（アトピー素因）、皮膚のバリア機能が弱くなっていること、外からの刺激やほこり、花粉、動物の毛などアレルギー物質に体が過敏に反応することなど、いくつかの要因が重なって発症すると考えられています。

主な症状は、皮膚の乾燥、赤み、かゆみ、ジュクジュクした湿疹などです。左右対称に出ることが特徴で、顔、首、肘・膝の内側などに多く見られます。季節の変化、汗、ストレスなどで悪化することもあります。

治療の基本は「保湿」と「炎症を抑えること」です。毎日のスキンケアで保湿剤を使い、症状に合わせたステロイド（炎症を抑える薬）や免疫を調節する塗り薬を使います。塗り薬は十分な量を適切な塗り方で使うことが大切です。かゆみが強いときは抗ヒスタミン薬など飲み薬を使うこともあります。そのほか、自分にとっての悪化の原因をなるべく避ける、規則正しい生活を心がける、ストレスをためない、などの工夫もしましょう。なお、どうしても症状が落ち着かない場合には注射薬を使うこともあります。

アトピー性皮膚炎はすぐに治る病気ではありませんが、きちんとケアすることで症状を落ち着けて快適に過ごすこともできます。気になる症状があれば早目に皮膚科を受診しましょう。

かめよし皮膚科・アレルギー科

院長 亀好 良一